

徳島市都市計画マスタープラン策定 市民会議（第6回） 議事録（要約）

- と き** 令和4年11月18日（金） 午後3時～4時30分
- ところ** 徳島市役所13階 大会議室
- 議 事** (1) 徳島市都市計画マスタープラン（素案）について
- 出席者** ・委員12人（奥嶋会長、東委員、岡山委員、小川委員、柏原委員、黒田委員、高源委員、島田委員、鈴江委員、滝本委員、谷川委員（代理：柴田氏）、辻岡委員）
・事務局10人（企画政策部都市計画課）
・傍聴0人

1 徳島市都市計画マスタープラン（素案）について

会長

ただいまの説明に対する意見、質問はあるか。

委員

流れは概ね良いと思うが、全体の方針の中で一部矛盾を感じたもの、あるいは意味が二通りに読み取れるところなどがあったため、個別に修正を検討してほしい。

概要版4ページ、土地利用の方針の市街化調整区域の中に計画的土地利用が記載されており、これは開発の余地を残す意図かと思う。ここで企業団地「等」と含みをもたせた表現が使われており、住宅系の含みなども出てくると感じるため、修正した方が良いと思う。

また、素案27ページ、郊外まちづくり調整ゾーンについて、これを今後廃止していく記述があり、概要版にも載せた方が良い。

概要版9ページ、住環境整備の方針では、農村集落における住環境の整備として、身近な商業・医療施設等の維持や生活道路・公園等の整備推進の表現がある。現状維持は良いにしても、公園整備、道路整備まで推進すると、コンパクトシティの方針と矛盾してくる。

概要版11、12ページ以降の、地域のまちづくり方針では、全ての地区に「にぎわい」というキーワードが入っており違和感がある。例えば「潤い」など、別の表現が良い。

事務局

今回いただいたご意見は、改めて庁内で協議し反映の有無を検討したい。

会長

他に意見はあるか。これまでの本市民会議での意見が反映されているか、あるいは大きく異なるか等に着目し、発言いただいても良いかと思う。

委員

観光や旅行で気づいた点を発言したい。

概要版 5 ページ、「公共交通ネットワークの再構築」と書かれている。徳島阿波おどり空港に着いて、そこで交通系 I C カードが使用できないことに驚いたという人が最近増えている。デジタル化推進の中で、空港から徳島市内に入るバス路線だけでも交通系 I C カードが使用できないか。また、公共交通については、徳島駅から放射線状に延びる路線が多いこともあり、どこかで乗り換える機会が少ない。この度、藍住町に藍の館が再オープンしたが、残念ながらバス停を降りてから 300～500 メートルの距離を歩くという不便が生じている。阿波十郎兵衛屋敷もバスアクセスとの連携ができていない。また、100 円バスの導入も考えられる。

この計画を策定した後の話になるが、都市計画マスタープランの見直しや評価の部分も認識を持たれていた方が良いと思う。

会長

後半の意見は、マスタープランを 10 年単位で見直すにしても、それ以前に、評価・調整する機会があっても良いのではないかということか。

委員

はい。

事務局

事務局としても定期的な進行管理を考えていく必要があると思っている。現在、関連計画である立地適正化計画について、並行して改定作業を進めている。立地適正化計画の進行管理指標はマスタープランと関連している。マスタープランの進行管理も、今後、定期的に公表できるようにしていきたい。具体的には、他都市の状況等も踏まえて、来年度以降、評価結果を公表できるようにしていきたい。

会長

I C カード等のデジタル化だが、県外・市外では、I C カードを飛び越して、スマホで決済できる仕組みが始まりかけている。

委員

概要版 13 ページ、昭和・津田地域の「地域防災力を高め、洪水や津波に強いまちづくり」のところで、「津田山を活かした」という表現を追記してほしい。

事務局

今回は昭和・津田地域という形でまとめている。ここで「津田山を活かした」と記載し

てしまうと、津田地区に特化した形になってしまう。昭和地区も含めた現在の書きぶり
としたい。

会長

別冊素案の 71 ページからの部分では、津田山についての記載がある。概要版はコンパクト
にまとめているので細かい部分をすべて記載することは難しい。

委員

別冊素案 43 ページの「7 協働によるまちづくりの方針」は、他の方針に比べてボリュー
ームが少ないと感じた。まちづくりに住民が参加することが、その地域の愛着や帰属意識
の醸成に非常に大事であると思う。例えば 40 ページ、都市防災の方針で記載されているコ
ミュニティを重視した減災対策などについては、協働によるまちづくりの方針にも重複し
て記載した方がよい。また、町内会の活動等を協働によるまちづくりの方針に記載しても
よい。

委員

別冊素案 27 ページ、郊外まちづくり調整ゾーンに対しては、一定の移行期間を伴う廃止
を視野に入れており、コンパクトシティ推進の観点から踏み込んで検討していると評価し
たい。

一方、市街化調整区域の耕作放棄地をどうするかが課題となる。概要版 4 ページ、市街
化調整区域の農業・自然系土地利用では、観光・レクリエーションの場としての活用につ
いて、集落の維持も含めて記載がある。これからの食料問題等を考えると、農業に興味を
持って従事することや、地産地消を推進することなど、そのようなことにも踏み込むこと
ができるとう今の時代に合ったプランになると思う。

委員

先日、市内のホテルで、男性 3 人がスマホで何か調べていた。その方たちは県外からの
観光客で、地域クーポン券を利用できるものの、どこへ行ったらいいいのかわからないと言
っていた。徳島市には阿波おどりをはじめ、いろいろな見どころがあるので、それらをま
とめて旅行者のために情報発信できるとよい。

委員

地域クーポン券を使用可能な店は、徳島県の観光協会が取りまとめており、取りまとめ
たデータを PDF 形式でアップロードしているが、PDF でアップロードすると検索にか
からないことがある。それを受けて、徳島市の観光案内所では、クーポン券を使用可能な
店の地図を配布している。PDF データがテキストデータになっていると検索で引がか
りやすいが、そこまでの対応ができてない現状がある。

会長

事務局には、観光という視点でブラッシュアップできる部分がないかを確認してほしい。

委員

別冊素案 38 ページ、都市景観のところでは吉野川は「雄大な風景」との記載がある。吉野川河川敷では高齢の方などが、いろいろなスポーツを楽しんでいるが、トイレが問題である。徳島市の観光・レクリエーションの振興を考えると必要な整備である。県外と比べると、徳島市はまだ遅れていると感じている。

また、先ほども意見が出た 100 円バスの件は、実は 10 年前に、私がこのマスタープランの会議で発言しており、実現してほしいと考えている。観光の充実は、何とか前に進めてほしいと思う。

委員

100 円バスに関しては、過去に何回かチャレンジしている。利用者は 1.5～1.7 倍ぐらいまでは増えるが、収入は減少してしまう。地方の路線バスは全路線赤字であり、結果的に減収する取組については、事業者としてチャレンジしにくい。

先ほどの IC カードに関しても、費用が 4～5 億円かかる。増収となる根拠がないところでの導入は難しい。一方、11 月 16 日から KDDI のスマホタッチ支払の実証実験を行っており、費用をかけない形でのキャッシュレス対応にチャレンジしている。

委員

私は内町地区に住んでおり、歩いて暮らせる環境にある。別冊素案 92 ページ、都市交通体系の方針として鉄道高架の推進が記載されている。これはだいぶ前から言われているが、進捗していないように思う。ここで記載されているのであれば推進してほしい。

委員

市街化調整区域の耕作放棄地対策のほか、市街化区域内の農地であっても第一次産業を守りつつ、整備を進めていけることを希望している。

委員

県都市計画課のそれぞれの担当と、素案を共有させていただき、何か気づいた点があれば、事務局に連絡させていただきたい。

会長

今回の素案については、細かい部分で見直していただく点はあるかもしれないが、この素案に沿って策定させていただくことでよろしいか。

(一同 異議なし)

事務局

本計画については、今後、議会報告やパブリックコメント、都市計画審議会などへの報告を経て、最終案として取りまとめをし、来年3月に議会報告、その後に策定・公表を予定している。

以上